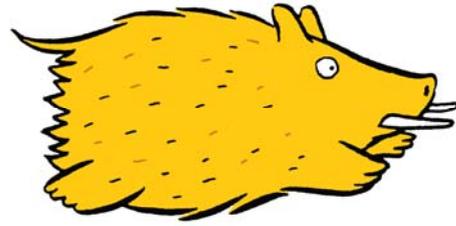




あな！トマン隊じゃあ無いのか



象の鼻遺跡編

by うさお

横浜市の広報から以前にご説明しました「象の鼻」の復旧工事エリアから、トロッコの転車台が見つかったとのメールが届きました。今だけ限定の見学会を行うと書いてありました。昔の横浜を知る親父やお袋は亡くなりましたので、自分の足で調査しかありません。これは早速、見に行くしかないとなんか排して出かけました。ライ隊員のまたお留守番かといって眼をものともせず、行っちゃいました。

「横浜港発祥の地である「象の鼻地区」は、開港150周年を契機に「象の鼻パーク」として生まれ変わり、来年の6月2日にオープンします。現在急ピッチで整備をすすめています。工事中に発見された開港から明治中期にかけての港の遺構のうち、「港の貨物線の鉄軌道及び転車台」について見学会を実施します。



うさおの後姿

港湾局港湾整備部・都市整備局都市デザイン室共催の期間限定のアナウンスです。惹かれる文句です。

平成20年10月19日（日）午後1:00から午後3:00まで、現地にて専門家による解説を行なわれる予定で、堀 勇良氏（元文化庁参事官付主任文化財調査官・横浜市歴史的景観保全委員）、米山淳一氏（横浜市歴史的資産調査会委員）がスピーカーだ。当日は曇り気味の日だったが、早めに食事を済ませ現場に行きました。Caccoは喫茶店が好きなので時間が来る

までお茶しようと言っていたのですが、それも振り切って見学会場に行きました。早く帰らなくちゃライ隊員に悪いじゃないか！だが既に人の波が…。待っている間にもわらわらと人が集まってくる。別に順番じゃないと見れないって訳じゃないけど、習い性か並ばないと心配になってきます。

見学者はお爺さん、お婆さんだけかと思っていましたら、若い人もカップルも多くいました。100人近くは居たでしょうか？当日の様子を記した何方かのブログには、うさおの後姿が写ってありました。[\(http://bokukoui.exblog.jp/9455738/\)](http://bokukoui.exblog.jp/9455738/)



兎も角も土中から掘り出されたそれは、風格を感じさせるものでした。

転車台とは写真にあるような荷揚げ用のトロッコを90度、直角に方向転換させるもので人力のターンテーブルのことです。

軌道間隔は3フィート6インチ、鉄道工事管理者の受講時に教え込まれた「イチコロクナナ」の数字。

すなわち1067mmのゲージでした。

今の在来線の規格ですね。世界的には狭軌と呼ばれています。

ちなみに新幹線の1435mmのゲージは標準軌と呼ばれ、世界的にはごく普通の線路幅です。京王線をはじめとする路面電車のゲージは、1372mmが使われています。

説明者は同一規格なので日本国中に貨物が配送されたのかもって、勢いで喋りましたが、軌道構造を見ると貨車が入ってこれる構造では無いので、これは無理でしょう。

で、これが転車台跡です。直行する軌道を曲線を設けず台を回転させることで直角に方向を変えることができます。しかも人力で動かすことが出来るので、とてもエコです。



浅目の井戸のような構造で下の方にコロのようなものが並んでいるのが分かります。天板だけを取り出したのが、上の写真です。比較的厚い铸铁で車輪の通るところだけスリットが切ってあります。

井戸の中はレトロっぽい煉瓦積み。なか



なか風格じゃん。外国の文化を取り入れた感じが紛々としている。

もう少し中を覗いてみると、そこには転車台の心棒が見えてきます。しかし、あの当時の技術ではこのように深い穴が必要だったのだろうか？この穴は関東大震災のため、レール部分が下がってしまい、それ以来使われなくなった。確かにレール位置で曲がっている。

この跡の上に東西倉庫が建てられたらしい。それ故遺跡がこれほど当時のま





ま残っていたのだ。

さてこれが当日の説明者たちで、この講義を聴いているところを他のマニアの方に写されてしまったのだ。

うさお的にはもっと興味を引いたのが下の軌道跡だ。もちろんこのトロッコの軌道ではありません。戦後敷かれていた臨海貨物線の軌道跡だ。

バックに見えるのは横浜税関です。通称クイーンと呼ばれている建物だ。



また、お留守居番だよ。  
寝ちゃお、寝ちゃお・・・



お父さんがサンタで来てくれた。ちゅっ!!!

## 観音様異聞

さて、前の不死不老編の観音様で、少し付け足しをしておきます。日本人は昔から観音様には何か特別の親しみを持っていると思っています。

観音様は一般的には男と思われていますが、だとしたら物凄く優男でスレンダーで着こなしが上手いといしか言えないセンスを持っています。女性だったら歳の頃なら 20 代後半か 30 代前半で、やはりスレンダーで訳在りの煩惱を優しく包み込んでくれるお姉さんの存在、その中間だと「中村中」のような性同一性障害をもつ苦悩する人というのがうさおのイメージです。

うさおの観音様の記憶は小さい時に連れて行かれた、長瀨の観音様しか覚えが無いけど。



中村中



観音様を商号に使っているのは「CANON」が有名、精機光学研究所がカメラの試作機に「KWANON (カンノン)」と名づけられました。俗説に言うキャノンは「キャノン砲」とかの武器から来た名前ではありません。

観音様は本当は一人であるはずなのに、七観音様とか三十三観音様とかやたら多くなっています。(一人じゃん、一人じゃん。)

聖観音、十一面観音、千手観音、馬頭観音、如意輪観音、准胝観音に以前由佳ちゃんが、うさおは例えるなら「不空羂索観音」であると言われていた観音様を入れて「七観音様」と言われております。観音様(補陀洛浄土)と仏陀(極楽浄土)の住む世界に違いがあるのは、違う部族であったからかもしれませんが、男と女の変にどろどろした関係があったのかもしれませんが。観音様に思いを寄せている仏陀、それを知りながらいささか冷たい態度で接している観音様。

紀伊半島にある熊野は海と山に囲まれた現世とは隔絶された地です。古からこの地は死者と神々の霊がすむ根の国(死の国)とされていました。熊野古道にも行って見ましたが、何だか熊が出そうで別の意味で怖かったです。根の国は山の中、海の彼方にあるのが常世の国、補陀洛です。

不老不死の楽土で迷いのない悟りの世界が存在し永遠の生命を得る補陀洛という理想郷が生まれたと思います。



現世の補陀洛浄土はじんじんの実家のお寺さんの温泉。「観音の湯」。あるブログに次のようなものがあつた。これって由佳ちゃんちではないのかな？

「先月、小牧大草福巖寺敷地内に、温泉がオープンしました。「観音の湯」と名づけられたその温泉には、檜の香りたっぷりの露天風呂と大きな酒樽で造られたスチームサウナがあり、参拝者に癒しの音楽を聴きながらゆっくり疲れを取っていただきたいという住職の願いを叶えるべく、スピーカー、アンプの取り付けに行ってみました。」PA屋さんのブログだったんだね。「店の内装工事をした事がこんな形で役に立つとは思っていませんでしたが、初めての仕事にも関わらず段取りよくできました。小さいですが、竹林に囲まれ檜の香りもたっぷりいい温泉ですよ～。今度ゆっくり浸かってこようと思います。。」

<http://musicpacekonn.blog102.fc2.com/blog-category-5.html>